



統合医療に基づいた
生活習慣病予防を
伊崎 博幸（無所属）



Q がん及びアレルギー疾患について、保健指導の効果が見えにくい。ため目標設定はしないと過去に答弁しているが、現代医学に補完代替療法を組み合わせた統合医療に関しては、臨床データの蓄積も進んでおり、医師も有効性を訴えていることから、当市も中長期的な目標を定めようか。

A 国は統合医療について、科学的知見が十分に得られているとは言えず、患者・国民に提供するに適切なでないとの基本方針を示している。そのため、統合医療に基づく生活習慣病予防や健康づくり活動を始め、がん・アレルギー疾患に係る目標設定を行う考えは持ち合わせていない。

Q 先進国ではがんをはじめとする生活習慣病患者数が減る中、日本は増加傾向にある。厚生労働省の指針がないことを理由に啓発を控えるのではなく、臨床データの蓄積が進む統合医療を、医師監修のもと、市独自で取り組む考えはないか。

A その考えは持ち合わせていない。引き続き、国の情報や動向を注視していく。



市役所職員の
働く環境改善を
降旗 太地（久比岐野）



Q 持続可能な市政運営には、職員のやりがいが必要だが、やりがいを高めるための取組について聞きたい。

A 令和5年に人事改革の方針を策定し、職員の意欲向上や組織風土の改善に取り組んでいる。**Q** 職員が仕事として現場に行きやすい体制は整備されているか。

A 推奨しているが、多忙で難しい現状があることから、業務効率化で時間の確保を図る。

Q 業務効率化のアイデアを全職員から募り、優れた提案を表彰する制度を導入してはどうか。**A** 業務改善を進める上での表彰制度は1つの方法であることから、前向きに検討したい。

今後の部活動の地域展開は

Q 指導者研修の質が高いため、より多くの指導者が受講できることが望ましい。地域クラブの認定の有無に関わらず、受講できないか。**A** 地域クラブ認定制度の中で実施しているが、制度の見直しも視野に入れて検討したい。

Q 今後「部活動」という言葉が消え、「地域クラブ」が定着するビジョンがあるのか聞きたい。**A** 部活動は本来、子どもが自発的に行う活動で、地域で多様なニーズに応えられる環境が理想である。安全性を担保し、地域の力で子どもたちを支える仕組みづくりを進めていきたい。



春日山城跡整備基本計画と既存計画の関係は
小林 和孝（市民クラブ）



Q 令和6年度のレガシー形成事業により、今後の春日山城跡の保存・活用についての指針となる国指定史跡春日山城跡整備基本計画（素案）が策定されたが、既存の通年観光計画及び春日山城跡保存管理計画との関係性はどうか。

A 通年観光計画では、教育委員会が策定した春日山城跡保存管理計画と整合を図りながら春日山城跡の各種整備事業を位置づけている。今後、市が史跡指定地内で通年観光計画に記載した事業を行うためには、文化庁の協議はもとより、文化財保護法に基づく手続きとして、整備の基本方針や具体的な整備内容をまとめた「整備基本計画」の策定が必要になると考えている。

一方、レガシー形成事業は、北陸信越運輸局が実施主体となり、春日山城跡の更なる観光活用に向けて、通年観光計画を踏まえる中で、より具体的な春日山城跡の整備内容が検討されたものであり、その成果が「整備基本計画」の素案として整理されたものである。

Q 今後の整備の方向性はどうか。

A 史跡内の大規模な整備に着手する際には、「整備基本計画」の策定も必要となることから、この素案を参考に、教育委員会において計画の策定を検討していきたい。事業の実施については、財源および優先順位を検討し、実施時期を判断していく。